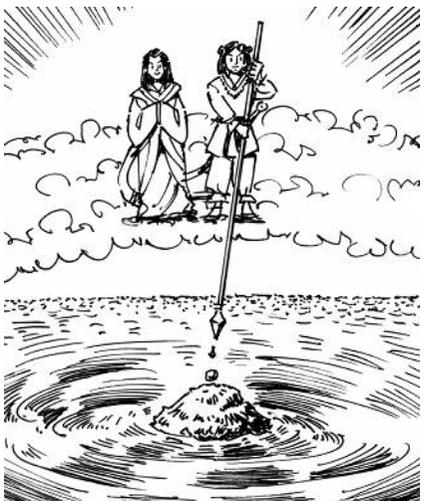


神々の古事記
蛭子社

「国生み」

伊邪那岐命と伊邪那美命が、天にかかる天浮橋に立ち、授かった天沼矛を海の中へ突き下ろし掻きまわして引き上げた。すると矛先から潮が滴り落ち、積もりかたまつて淤能碁呂島になりました。その島に降り立つと、太い柱の広い御殿を建て、伊邪那岐命は柱を左に、伊邪那美命は柱を右に回って夫婦のかためを行いました。最初に誕生したのは骨のない水蛭子でした。次も上手くいかなかったので、天神に相談し夫婦のかためをやり直しました。そして淡通之穗之狭別島（淡路島）、伊予二名島（四国）、隠伎之三子島（隠岐島）、筑紫島（九州）、伊伎島（壱岐島）、津島（対馬）、佐渡島（佐渡島）、大倭豊秋津島（本州）をお生みになれました。これらを大八島国と呼びます。



廣峯神社の随神門をくぐり、左に向かうと蛭子社があります。この社に祀られているのは、国生みで最初に生まれた神様で、廣峯神社の主祭神である素戔鳴尊の兄神であられ、七福神としても親しまれています。「えびす様」こと蛭子神です。元々は大漁のご利益がある海の神様でしたが、海の幸、山の幸にかかわる市場の神様、農耕の神様としても信仰されるようになり、流通に関わる商売繁盛の神様として有名になりました。廣峯神社では商売繁盛の御守も授与しています。